



石狩地域森林ふれあい推進センター

今回は、当センターが主催する大きなイベントの一つである「札幌水源の森づくり」について紹介いたします。



ポット苗木づくりイベント（創成川公園会場）

このイベントは、札幌市の水がめと言われている定山溪国有林が、豊かで良質な水を育み市民の生活を支える「水源の森」として重要な役割を果たしていることを知っていただくとともに、定山溪国有林を市民の貴重な財産として次の世代に引き継いでいくことに役立てるために行っています。当センターが発足した平成16年から札幌市とともに開催し、北海道、森

林ボランティア団体や教育関係機関等の協力を得つつ、13年目を迎えた今年は8月27日に開催しました。

●ポット苗木づくり

市民のみなさんに「水源の森」とのかかわりを身近に感じていただき、誰でも気軽に楽しんで参加していただけるよう、札幌の街の中心で、再生ダンボールでできた「カミネッコン」を使用したポット苗木づくりをしていただいています。これまでに通算約6千個のポット苗木を作製しました。

●「水源の森」づくり

作製したポット苗木を植栽している現地は、定山溪ダムの上流部に位置する国有林で、植栽以前は台風等により、樹木が倒れたり幹の途中から折れたものが散在し、ササが一面に繁茂し、一見すると森林に穴が空いたような状態になっていました。

このような樹木が十分に生育していない箇所を

対象に、ポット苗木を植栽するとともに、ササの一部を取り除き、周辺の樹木から散布される種子による天然更新を促し、「水源の森」として再生しています。

●植栽・保育作業

植栽作業については、主催・協力団体だけでなく、ポット苗木づくりに参加したNPO団体や一般市民の方々にも参加していただいております。年々活発化しています。更に、森林での作業の後は、周辺国有林における森林の散策を行い「水源の森」を一層身近に感じていただいております。



現地での植栽作業

また、下刈等保育作業については、森林ボラン

ティア団体の自主活動として当初より継続実施していただいております。



森林再生（奥が昨年までの植栽箇所）

これらの市民のみなさんの活動のおかげで、現地は気象及び土壌等厳しい条件ではありますが、着実に森林再生が進んでおります。

札幌市の水道の蛇口をひねれば出てくる水も、その多くは市の上流部に豊かな森林があつてこそであり、今後においても、市民が気軽に参加しやすい森づくりを進め、『行政機関と連携・協働の森林づくり』として、より一層の展開につなげることを期待しているところで